



気づき 考え やりとげる

令和6年12月2日

師走です















「師走(しわす・しはす)」の意味や由来には諸説ありますが、よく言われているも のは「お経をあげるために師僧が東西を忙しく走りまわる月」であったことから、年 末で何かと忙しい 12 月をそのように言っているようです。2024 年も残り 1 か月とな りました。この1年間を振り返ってみて、いかがだったでしょうか。

学校では2学期を振り返る時期になりました。授業や行事の振り返りを通して、で きるようになったことや成長したところの確認を行うとともに、新 たな課題を見つけ次に生かす方策を考える機会を持つようにしてい きます。振り返った内容は面談にて保護者と共有させていただく予 定です。なお、学校アンケートへの協力もお願いいたします。

12月12日には「今年の漢字」の発表があります。どの漢字が選 ばれるのかを予想しつつ、自分自身の2024年の振り返りをしていた だければと思います。引き続きの学校への御支援と御協力をお願い いたします。



今年の漢字は?

18人で創った最幸の思い出!

10月13・14日の2日間、6年生は東京方面に修学旅行に 出かけました。2学期に入ってから準備を始め、運動会後 に「どのようにしたら楽しめるか」ということについて話 合いを重ねてきました。スローガンを「マナーを守って楽 しもう! 18人で創る最幸の思い出!!」に決め、みんなで楽 しむ修学旅行を目指しました。

バスの中ではレク係がみんなを盛り上げ、グループ行動 では班長と副班長を中心に計画に沿って活動をしていまし た。カメラ係は班員の要望に応じて記録写真の撮影を行い ました。そして、保健食事係は、いろいろな場面で班員の 体調チェックを行いました。自分の役割を意識し、みんな のために行動する姿があちらこちらで見られ、スローガン が浸透していることが伝わってきました。

修学旅行後の振り返りでは、「思い出ベスト3」の中に 「ホテルライフ」を挙げる人がたくさんいました。夜遅く まで友達とひそひそと話をしていた時間は一生忘れられな い思い出になることでしょう。2日間で得られた学びをこ れからの生活に生かすとともに、18人で創った最幸の思い 出を忘れないようにしてもらいたいです。







♪ 富二小伝統のリコーダー四重奏 ♪



11月24日、富岡地区コミュニティ祭りのステージで、 本校伝統のリコーダー四重奏の演奏を披露いたしました。 昨年度に引き続きのステージです。本番前は、「めっちゃ 緊張してる。どうしよう。」などと、不安な気持ちを言葉 にしていましたが、いざ演奏が始まると、いつもの素晴ら しい音色を響かせていました。今年も、演奏後の大きな拍 手で満足感を味わった5・6年生でした。

地域の行事に、地域の一員として参加して盛り上げることは、郷土愛を高めること につながります。今後も、地域の活動に積極的に参加できるように働きかけていきま すので、御協力をお願いいたします。

多くの「富二小応援団」に感謝です

9月より始めた「富二小応援団」の活動ですが、多くの方々が参加してくださいました。9・10月は主にグラウンドの草取りや周辺の草刈りなどをしていただきました。地区運動会が終了した11月は、校舎の窓の棧(さん)をきれいにする作業をし

ていただきました。普段、手の届かないところをきれい にしていただけるので、子供たちが気持ちよく学校生活 を送ることができています。本当に感謝です。

毎月第2金曜日を定例の活動日としております。次回の活動日(12/13)は、体育館外壁のすす払いを予定しています。御都合がつく方は午前9時ごろ学校にお越しください。保護者の方の参加も大歓迎です。



日本舞踊の体験をしました!



中学校における部活動の地域移行についての話合いを進める中で、小学生が文化芸術活動に触れる機会を持つことも必要ではないかとの意見から、裾野市文化協会と裾野市教育委員会がタッグを組み、小学生を対象にした文化芸術活動の紹介・体験事業を展開しています。

富二小では5年生を対象に日本舞踊の体験活動を実施いた しました。講師は花月流八千代会の方々で、浴衣を着るとこ

ろから始めました。日本舞踊についての話や実際の動き(踊り)を体験しました。慣れない浴衣を着て動くことは意外に難しかったようです。今回の体験をきっかけに、 日本舞踊をはじめとする和文化に興味を持ってもらえたらと思います。

部活動の地域移行が出発点の事業ですが、やはり様々な体験をすることで、「やってみたい」の選択肢が増えるのだと思います。幼少期から一つのことを極めることを否定するつもりはありませんが、本物に触れる機会をたくさん持つことが子供の可能性を広げることにつながることは間違いないと思います。

周りの大人が「子供のチャレンジ応援団」となって支えていく環境を整えていくようにしましょう。

